

パナイ、ネグロスの各島に分布することが知られた *D. longispicatum* Ames はその次に似ているものだが Ames, *Ibid.* 106 によると植物体の概形が異なり、長い偽鱗茎（長さ 6 cm に達する）と長く優美な総状花序（花序柄の長さ 19~20 cm, 花序の長さ 17 cm 内外）ですみやかに区別できるという。同ページの図をみると、ずい柱の側翼の屈曲が弱く、唇弁内面のカルスがより大きく描かれている。ルソン島にだけ知られていた *D. uncatum* と、より分布域の広い *D. longispicatum* とが果して別種であるかどうか、やや疑問が残るが、この問題は将来の研究にゆずりたい。かりに同種関係としても先に発表された名前は *D. uncatum* である。それでは *D. uncatum* とタイワンムカゴソウの違いはどうか。Fig. 1 に示したように、後者のずい柱側翼の後方に微小な欠刻があるのに前者にはない。また側花弁と唇弁側裂片の縁の欠刻が後者は前者ほど著しくないというやや微妙な形質が鍵になりそうである。

ボルネオの *D. dolichobrachium* については検討し得なかったので将来の研究にまたなければならぬが、かりに同種関係であるとしても学名は *D. uncatum* の方が早く発表されているので後者の方を採用ことになる。

タイワンムカゴソウは *D. uncatum* と形態がよく似ているが少し異なり、分布域もその北端であることを考慮して学名を次のように提案したい。

***Dendrochilum uncatum* Reichb. f. var. *formosanum* (Schltr.) Hashimoto, comb. et stat. nov.**

Platyclinis formosana Schltr. in Bull. Herb. Boiss. ser. 2 6: 302 (1906) —
Dendrochilum formosanum (Schltr.) Schltr. in Fedde Repert., Beih. 4: 185
 (1919).
 (国立科学博物館 筑波実験植物園)

□倉田悟・中池敏之（編）日本シダの会（企画）：日本のシダ植物図鑑 2. 648 pp. 1981. 東京大学出版会, ¥10,000. 本誌 54: 378 で紹介した第 1 巻と同じく 100 種のシダを収録、分布図・生態写真・線画などが同じ形式で載っていて立派なできばえである（ただし孢子の写真はまだ電頭になっていない）。今回はチャセンシダ科とウラボシ科が主になっている（前の紹介に書き落としたが第 1 巻はワラビ科とオンシダ科に重点）。なお本書は第 8 巻まで、合計 800 種をもって完結の予定になっていて着々進んでいるというのである。
 (伊藤 洋)